

令和6年度 教育民生常任委員会 行政視察報告書

1. 視察期間

令和6年5月20日（月）～5月21日（火）

2. 視察場所・項目 ①奈良県大和郡山市

・学びの多様化学校 分教室「ASU」について

②愛知県北名古屋市

・北名古屋市版コミュニティ・スクールについて

3. 参加委員

委員長	西川嘉純	副委員長	中村理香子
委員	広瀬明子	委員	岡本善徳
委員	水野実	委員	柳毅一郎
委員	橋爪雄輔		

教育民生常任委員会 行政視察参考資料

■奈良県大和郡山市：学びの多様化学校 分教室「ASU」について

①市 勢

1. 人 口	82,989 人	} R6年3月31現在
2. 世帯数	39,359 世帯	
3. 面 積	42.69 km ²	
4. 予算額	340億8,000万円（令和6年度一般会計予算）	
5. 議員数	20人（令和5年10月27日現在）	

②事業概要

大和郡山市では、市内小・中学校に在籍する不登校児童生徒の主体的な活動を大切にしながら、社会性や相互の人間関係を築いていく力を育み、社会的自立を促す教育を推進するため、郡山北小学校・郡山中学校分教室「ASU」を設置しています。

ここでは、不登校児童生徒を対象とする学校設置に係る教育課程を弾力化できる措置を受け、学習指導要領を根本から見直し、独自の教育課程と評価を作成して、授業を進めています。

また、児童生徒一人一人の実態に応じて、常勤の教員の指導のもと奈良教育大学の大学生（学習チューター）が、学習指導の補助を行うこともあります。

●「ASU」の3つの柱

- ・安心できる居場所の提供
- ・体験活動を基軸にしたコミュニケーション力や社会性の育成
- ・一人一人の実情に応じたカリキュラム

●特色ある教科

- ・スポーツタイム

体力の向上や集団の中でのコミュニケーションを重視した体育活動を行う時間です。

- ・わくわくタイム

技術・家庭など実技教科の内容を取り入れた学習活動を行います。

児童生徒が心を動かし活動できる力の育成や、情報活用能力を育成する時間です。

- ・いきいきタイム

創作や表現を重視した芸術的な活動を行い、表現能力の向上と感性豊かな児童生徒を育成することを目指した時間です。

- ・チャレンジタイム

自分で計画を立て、得意な教科や学びたい学習に取り組むことで、意欲的な学習を促す時間です。

- ・ASU タイム

自己を見つめるための時間。自己表現の場とし、自己認知や他者認知を深め、「生きる」という課題に向かう力を育成することを目指した時間です。

◆主な質疑応答

Q. どういう子が「ASU」に来るのか。

A. 他の子とトラブルになり、学校には行けないけど勉強はしたい子や、学校で自信を失い引きこもりになっていた子が来ている。「ASU」ではそのような子たちが自信を取り戻して成長している。

Q. 特色ある教科の中で、児童生徒の反応が特に良かったものや、教育的効果が顕著だったものは。

A. 「ASU」独自のカリキュラム。特に「チャレンジタイム」は自分たちがやりたいと思った事が実現できるので、それが大きな意欲につながっている。また、「わくわくタイム」や「いきいきタイム」は上下の学年の子たちと一緒に活動できるので、中学生が小学生を可愛がり、小学生が中学生に憧れをもつなど、大きな効果があった。

Q. 一人一人の実情に応じたカリキュラムについて、どのような方法で児童生徒のニーズを把握し、それに応じた教育を提供しているのか。

A. 子どもたちの数が少ないので、個別に対応が出来るような形でスタッフを配置し、一人ひとり丁寧に見立てている。また、毎日必ず1時間は子どもたちの様子を密に情報共有する時間を設け、職員みんなが把握して教育活動に返している。

Q. 中学卒業後の進学状況は。

A. 令和5年度の卒業生は全員高校に進学している。

Q. 卒業した子どもたちが社会の中で成長しているのを確認しているか。

A. カウンセラーの一人でもある大学教授が卒業後の追跡調査をしており、社会の中で活躍している子も非常にたくさんいるという話を聞いている。また、高校に行った後やめてしまう子もいるが、次にどこに行くか決めてやめるケースが多く、新たなステージに向かって自分の足で進んでいく力が「ASU」に通う中で培われていると感じている。

Q. 先生方は市費の非常勤講師なのか。

A. 分教室にしたことのメリットであるが、県費の職員を配置することができるようになった。県教育委員会と協議し、子どものいる学年の数に応じた配置となっている。また、全ての教科の免許をもつ方がいるように、残りは市費の職員を非常勤の形で配置している。



■愛知県北名古屋市：北名古屋市版コミュニティ・スクールについて

①市 勢

- | | | |
|--------|--------------------------------|-------------|
| 1. 人 口 | 83,548 人 | } R6年4月1日現在 |
| 2. 世帯数 | 37,075 世帯 | |
| 3. 面 積 | 18.37 km ² | |
| 4. 予算額 | 306 億 9,300 万円 (令和 6 年度一般会計予算) | |
| 5. 議員数 | 21 人(令和 5 年 8 月 25 日現在) | |

②事業概要

北名古屋市では、子どもたちの「生きぬく力・学力」の向上だけでなく、家庭の「教育力」の向上、地域の「絆」の強化を図るためのしくみとして、コミュニティ・スクールを位置づけています。

学校は、地域社会の中でその役割を果たし、地域とともに発展していくことが重要であり、「開かれた学校」から更に一步踏み出し、地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域住民等と共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」づくりの取組を推進しています。

この取組の中で、地域が目指す子ども像や学校・家庭・地域の役割などを話し合う「学校運営協議会」と、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていく様々な活動を行う「地域学校協働本部」や、学校運営への協力を促進する「学校関係者評価委員会」を一体化して進めているのが、北名古屋市版コミュニティ・スクールです。

●目的

コミュニティ・スクールの直接の目的は、地域ぐるみで子どもたちを育てることですが、それだけではありません。地域の絆を深め、より活性化していくことでもあります。

「子どもは地域の宝」です。子どもたちが将来大人になった時に、地域の担い手として次世代の子どもたちを育てていく、という将来的な目的も合わせ持っています。

●だれもが できるときに できることを

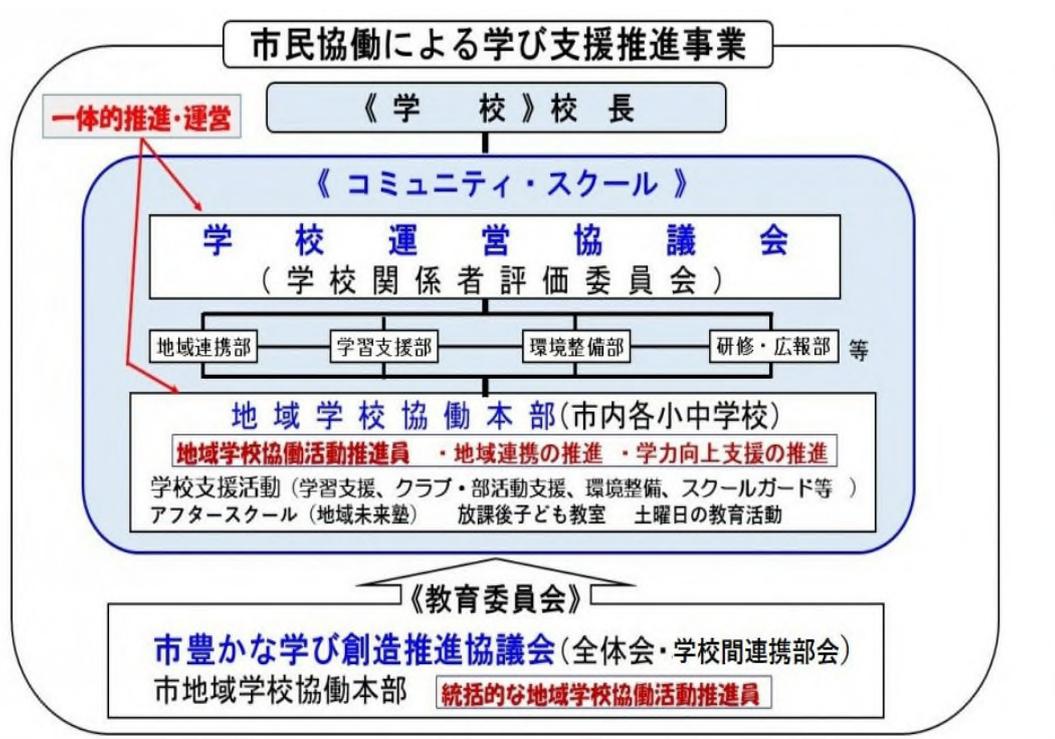
学校を支援する活動を中心とする地域学校協働活動は、保護者だけでなく、お子さんやお孫さんが卒業された方も、そして、地域住民も、都合のよいときに参加できます。

●スムーズで緩やかな小中連携に向けて

地域から見た子どもの育ちは、各学校単位で収まるものではなく、小学校と中学校との学校間連携は、地域とともにある学校づくりを考える上で、重要なテーマとなっていて、9年間の学びを地域ぐるみで支える仕組みづくりが求められています。

コミュニティ・スクールの推進にあたっては、地域の範囲を中学校区にとらえ、複数の小中学校間の連携・接続に留意した運営体制づくりを進めていくことが期待されています。北名古屋市では、小中のスムーズで緩やかな連携づくりを指向することにより、小学生の中学校進学に対する不安感を軽減するとともに、中学生が小学生とのふれ合いを通じ、上級生であることを意識することで、豊かな心の成長につなげています。

コミュニティ・スクールでは、体験活動を軸としたキャリア教育支援にも力を入れて取り組んでいます。



◆主な質疑応答

Q. 地域住民が共有する子どもたちを育てる目標やビジョンは。また、これらが実際にどのように実現されているか。

A. コミュニティ・スクールの活動を通じて、子どもたちが保護者及び地域の方々とより一層関係を深め、分かち合い、学校に通うことが楽しくなるよう願う。コミュニティ・スクールは学校と協働して活動する独自の組織であり、師勝北小学校ではそのとおりの活動がなされている。

具体例としては、定期クリーンボランティア、読み聞かせ、図書館整備、学習支援、避難所体験、防災マップ作り、もちつき会など。

Q. 学校運営協議会や地域学校協働本部、学校関係者評価委員会の選任方法は。

A. 各学校が推薦し、教育委員会が委任する。公募はしていない。

Q. 現場の先生の関わりについて、労働荷重にはなっていないか。

A. 導入当初の教頭の負担は免れないが、2～3年後にスムーズな運営が可能となれば負担は軽減され、逆にプラス面が多くなる。

Q. コミュニティ・スクール認知度アップに対する施策は。

A. コミュニティ・スクールだよりを作って自治会を通じて回覧している。また、各学校HPや地域の情報誌にもコミュニティ・スクールの活動を載せてもらっている。



※ 本報告書は、大和郡山市、北名古屋市よりご提供いただいた資料及びそれぞれが管理されているホームページ等の情報を基に作成しています